

慶應義塾大学医学部が求める教員像および教員組織の編成方針

求める教員像

慶應義塾大学医学部の教育目標を十分理解した上で、教員の資質・能力について以下の様に求める。

1. 各専門分野において体系的知識と確実な技術を身につけた人
2. 生涯にわたって研究、診療、教育において自己研鑽を続ける人
3. 医療人の育成にふさわしい、優れた人格、見識、高い倫理観を有する人
4. 他の教職員とチームとして活動できる人
5. 国際的な視点を持ち、社会の先導者として活動する人
6. 大学運営、社会活動（学会活動や委員会活動など）に積極的に参画する意思がある人

教員組織の編成方針

医学部のカリキュラム、社会状況、地域が求めることと医学部の使命に基づき、医学部長は病院長と担当理事と相談し、教員人件費や資源の有効利用も配慮しながら、十分な教員を配置する。教育、研究、診療、管理運営の観点から、専門科目（基礎医学、社会医学、臨床医学）、基礎教育科目の教員配置をおこなう。その際、常勤（専任および特任）および非常勤教員のバランス、教員と職員のバランス、男女のバランス、国際性（外国人比率）に配慮する。育児支援枠を設置し、教員のライフワークバランスに配慮する。

教員の募集・採用・昇格方針

多様性に留意し、透明性、公平性を担保して、教員の選考を行う。それぞれの選考においては、選考委員会が業績（専門資格、研究業績、臨床業績、診療能力、外部資金取得状況、FD参加状況、教員業績評価、プレゼンテーションによる人物像など）を指定し、それに基づき評価をおこなう。昇格や有期教員の継続においても、指定した業績を提出させ判断する。

教員の資質向上に対する方針

1. 医療人の育成に関わるものとして、研究、診療、教育において自己研鑽を続ける。
2. 医学教育統轄センターが毎年実施するFDに所定の回数以上参加し、医学部のカリキュラムを理解し、最新の医学教育の事情を理解する。
3. 年に1回、教員業績評価を提出する。そこには、教育、研究、診療のエフォートも明記する。教育業績評価は、昇格の際に提出する必要がある。
4. K-RIS データベースの研究業績や教育業績を随時更新する。

以上